

※ Forest Stewardship Council®  
(森林管理協議会)

「森林の管理が環境や地域社会に配慮して適切に行われているかどうか」を評価・認証し、そうした森林からの生産品であることを証明する制度をつくっている国際的な機関。認証を受けると、木材や木材商品にFSCのロゴマークを表示できる。



「木屑も捨てずに再利用できるんですね」



FSC(※)森林認証を早くから取得した橋原に誇りをもつ田尾さん



切り取った材は、記念にお持ち帰り。「スイカみたい!」

橋原町森林組合



森林価値創造工場(FSC認定工場)を併設。  
住所/高岡郡橋原町広野647  
TEL/0889-65-0121  
<http://www.yusuhara.or.jp/>



橋原町森林組合以外にも、土佐材産地見学ツアーを行っている団体があります。詳細は、以下へお問合せください。

ぶらっとホームMoku(木と人・出会い館)  
住所/南国市緑ヶ丘1丁目1201-5  
TEL/088-879-3304  
<http://www.k-kenmoku.com/deaikan/top.html>

この日の取材の様子はこちらから

[YouTubeチャンネル](#)  
[森林環境情報誌 もりりん](#)



木の一番上部の枝を切り株に立てて、みんなで一礼。長い間、ここに立ち続けてきた木の命をありがたくいただきます



思わず見上げてしまうほど大きな樹木たち



木には、思わず触りたくなる安心感があります



家づくりは、木材一本の伐採からはじまります



「この木は家のどの部分になるんですか?」主に梁として使うように、設計寸法に合わせてこれから製材・乾燥・加工を行っていきます。」



森から生まれる  
マイホーム



わが家の木のルーツ

「土佐材産地見学ツアー」をご存知でしょうか。高知県産材を使って家を建てる方が、木材の産地を見学するツアーで、県内の森林組合や工務店が主催しています。これまでに約1,600名が参加して、木材の生産現場を知る良い機会になっています。

2022年6月、京都府にお住いの谷口さんご家族が参加した、橋原町森林組合のツアーに同行しました。高知に来るのは初めてという谷口さんは、「自分が伐採した樹が使われるらしいので、我が家に愛着がもつと湧きますよね。」とツアーに参加した理由を語ってくれました。県産材を使用した家を11月に建築予定だそうです。

初めに加工課の田尾欣三課長から、町の自然を活かした環境に優しい取り組みなどの説明を受けた後、すぐ裏手にある橋原町所有の山林に移動。田尾さんに斧入れのレクチャーを受けた谷口さんが杉の大木に斧を入れます。応援していたお子さんも続いて挑戦しましたが、初めて持つ斧はさすがに重そうです。その後、組合の方がチェーンソーで伐り倒すと大きな音が森に響き渡りました。無意識に後ろへ逃げてしまうほどの迫力です。「こんなに離れているので大丈夫ですよ(笑)」という田尾さんの言葉にみなさん照れ笑い。この木が京都に運ばれて、自宅の建築に使われる



れる実感はまだ湧いていないようでしたが、住み始めて梁や床を見るたびに、今日の体験を思い出すことになりそうです。

身近な高知の木を使う

「ツアーを体験した方は、半年以上かかって家が完成することに理解を持ってくれます。木材の節目も大自然で育った樹の個性だと解釈して、クレームどころか逆に愛着を持ってくれますね。」という田尾さん。このような機会は生産者にとっても大事だと考えています。「自分たちの伐採した樹が利用されることを実感して、やりがいが増えます。途中で割ったらいかんなんと、プレッシャーもかかりますけどね(笑)」。

10年前の木材国内自給率は3割に満たない程度でしたが、その後は徐々に国産材が使われはじめ、近年では4割を超えるほどになっています(令和2年・林野庁データ)。今後も、国産材をより多く使っていくためには、人材不足や増加する放置林などの課題を解消しなければなりません。「使うためには成長を促すための適切な手入れが必要。そのためにも木の良さをもっと知ってほしい」と、田尾さんが木々を見上げています。

現在、県産材の県内消費量は3割弱。県外からも注目される高品質の木材を、身近にいるわたくし達が使わないのは、とてももったいない気がします。改めて県産材について考えてみましょう。